

平成27年度 QCサークル山形地区主催

第271回 小集団改善活動研修会 実施報告書

過日実施致しました研修会の概要を下記にご報告致します。

■ 日 時 平成27年 9月 1日 (火) 9:00~17:00

■ 場 所 東根市さくらんぼタクトクルセンター
(東根市中央一丁目5番1号)

■ 参加者 17社、41名 (幹事:10名) 総参加者数:51名

■ プログラム

時 間	内 容	担 当
8:30 ~	受 付	間宮幹事/事務局
9:00 ~ 9:05	開会挨拶	加藤世話人
9:05 ~ 9:10	オリエンテーション (事務連絡および講師紹介)	佐藤(浩)幹事
9:10 ~ 11:50	講義” ヒューマンエラー対策講座<実践編>”	高橋先生
(9:10 ~ 10:30)	第1章~第3章	
(10:30 ~ 10:40)	休 憩	
(10:40 ~ 11:50)	第4章~第8章	
11:50 ~ 12:40	昼食・休憩	
12:40 ~ 12:45	グループ演習準備 (グループ毎に着席)	
12:45 ~ 15:10	グループ演習 (事例研究)	高橋先生
(12:45 ~ 13:00)	第9章 …実施要領説明	
(13:00 ~ 15:10)	グループ討論 休 憩 (グループ単位で1回自由にとる)	
15:10 ~ 16:10	グループ演習の結果発表	各Gr
16:10 ~ 16:35	講 評	高橋先生
16:35 ~ 16:45	アンケート記入/回収	受講者/幹事
16:45 ~ 16:50	閉会挨拶	村石幹事長
16:50 ~ 17:00	記念撮影	事務局

参加企業一覧

参加企業：17社（41名）

No.	会社・事業所名	所在地	業種 (主要製品)	会員 区分	参加人数		
					計	男性	女性
1	JOHNAN株式会社 山形社	村山市大字櫛山字 金谷原1224-36	製造業 (液晶フィルム)	工業会	4	(4)	
2	パーリンガーインゲルハイム 製薬株式会社	東根市大字 東根甲5353-1	製造業 (製薬)	工業会	2	(2)	
3	大蔵精機株式会社	山形市鑄物町44	製造業 (水中ポンプ)	工業会	2	(2)	
4	株式会社新庄エレメックス	新庄市福田711-36	製造業(自動車精密部品、 プラスチック中空ハッカー)	賛助	5	(5)	
5	富士電子株式会社	山形市立谷川 2丁目1114	製造業 (輝度上昇フィルム、ホーロー)	一般	4	(2)	(2)
6	日東ベスト株式会社 大谷工場	西村山郡朝日町馬神字 昭和新田75	食品製造業 (冷凍食品)	工業会	1		(1)
7	日東ベスト株式会社 高松工場	寒河江市大字高松267	食品製造業 (麺類、調理品)	工業会	2		(2)
8	日東ベスト株式会社 東根工場	東根市大字蟹沢字 藤の木1335	食品製造業 (冷凍食品)	工業会	1		(1)
9	日東ベスト株式会社 本社	寒河江市幸町4-27	食品製造業 (冷凍食品)	工業会	2	(1)	(1)
10	日東ベスト株式会社 寒河江工場	寒河江市幸町4-27	食品製造業 (コルク缶詰、冷凍食品)	工業会	1		(1)
11	コバレントマテリアル 株式会社	西置賜郡小国町大字 小国町378	窯業 (半導体部材)	賛助	4	(4)	
12	エムテックスマツムラ 株式会社 尾花沢事業所	尾花沢市北町2-2-2	製造業 (半導体デバイス)	賛助	3	(3)	
13	有限会社畑田鐵工所	鶴岡市下清水字 内田元72-40	鉄工業 (農業用機械部品)	賛助	1	(1)	
14	株式会社アーレスティ山形	西置賜郡白鷹町大字 荒砥乙65	製造業 (自動車部品)	一般	1	(1)	
15	昭和電工HD山形株式会社	東根市大字 東根甲5400-2	ハードディスクメディア研究開 発、製造及び販売業 (ハードディスクメディア)	工業会	2	(2)	
16	株式会社キリウ山形	最上郡舟形町 舟形2332-1	鑄物部品製造業 (ドラムブレーキ)	賛助	2	(2)	
17	株式会社山形共和電業	東根市大字 東根甲7057-24	電気機器製造業 (ひずみゲージ)	賛助	4	(3)	(1)
合計					41	(32)	(9)

※受付順記載

▼開会の挨拶（加藤世話人より）



▼講師紹介（佐藤幹事より）



▼講義：ヒューマンエラー対策講座＜実践編＞



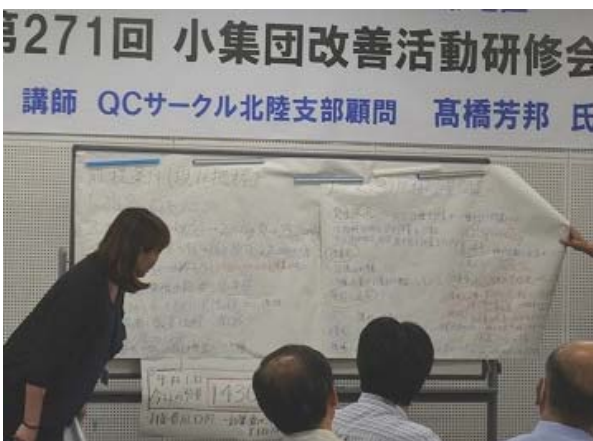
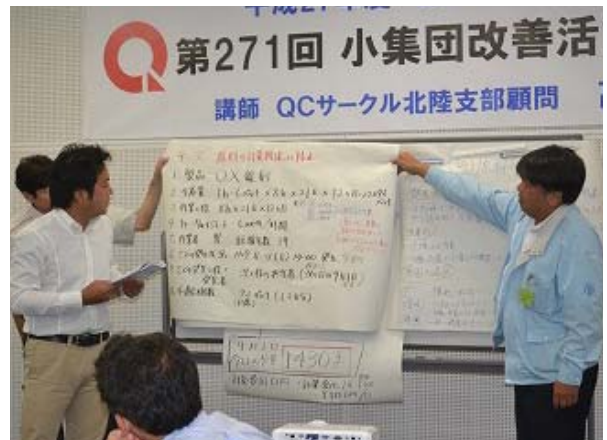
講師：高橋芳邦氏（QCサークル北陸支部顧問）



▼グループ演習：事例研究



▼グループ演習：事例研究結果発表 & 質疑応答・講評



▼グループ演習：事例研究結果発表 & 質疑応答・講評



▼閉会の挨拶（村石幹事長より）

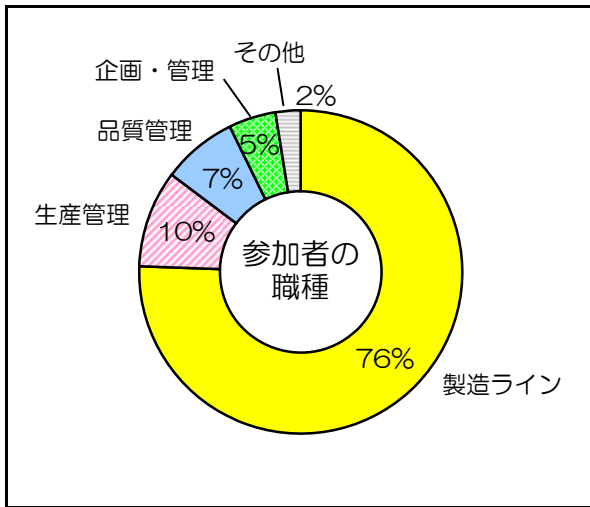


▼集合写真

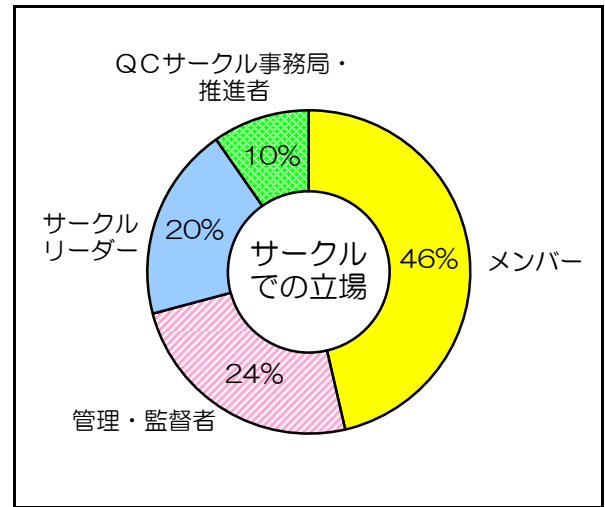


■参加者：41名（アンケート回収率：100%）

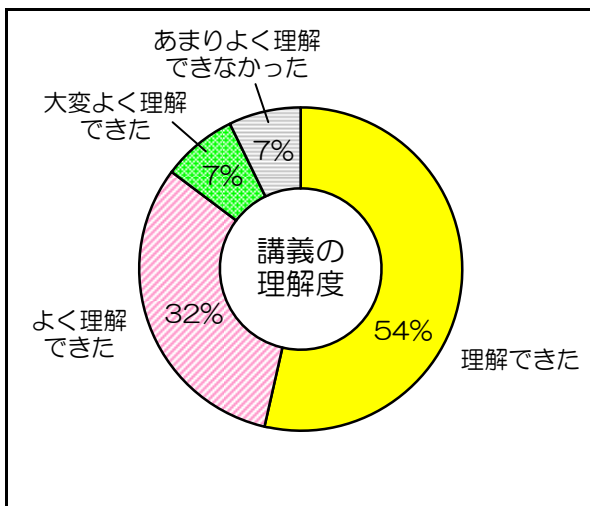
1. あなたの職種は？



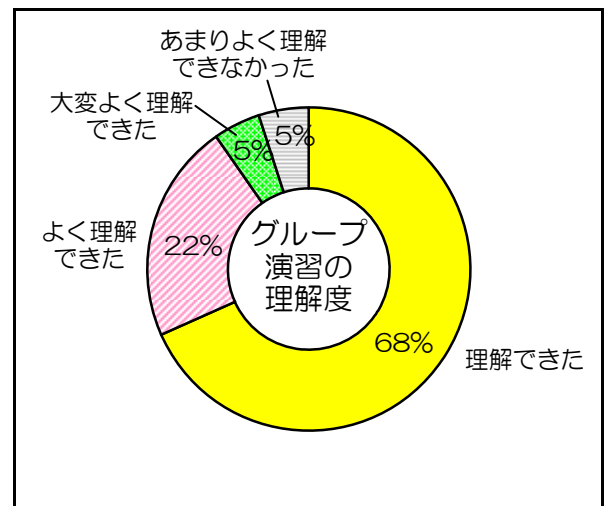
2. あなたのサークルでの立場は？



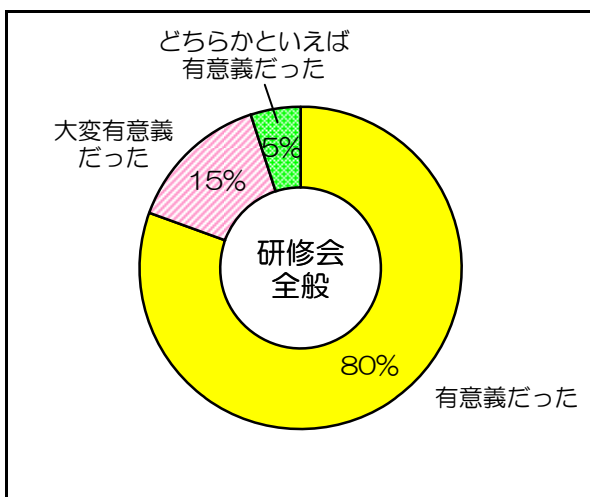
3. 講義「ヒューマンエラー対策講座」＜実践編＞のポイントについて理解できましたか？



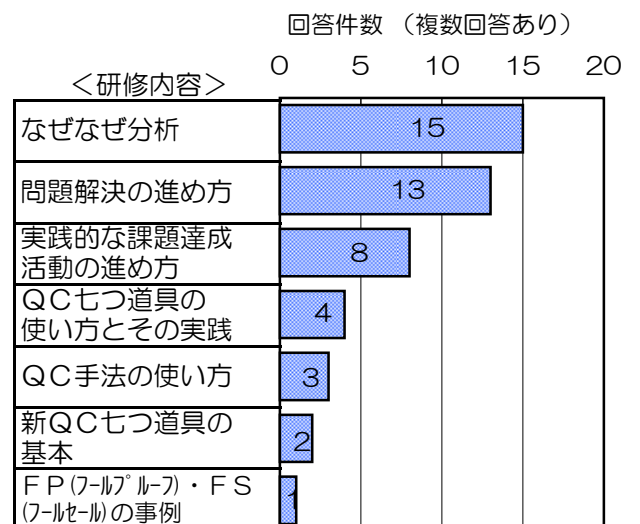
4. グループ演習は理解できましたか？



5. この研修会はあなたにとって有意義でしたか？



6. あなたが次回受講してみたい研修は？



7. 今回の研修全体を通して学んだこと、気付いたこと。

《講義》

- ヒューマンエラーへの取り組み方、防止方法、対策方法について学ぶことができた。（同意見：7件）
- 講義では実例があり現在の仕事でも起こる事例が多く、内容がイメージできるのでわかりやすかった。（同意見：4件）
- 5ゲン主義、ホウレンソウの重要性を再認識した。（同意見：2件）
- F・P（フルプルーフ：失敗したくても失敗できない）と、F・S（フェイルセーフ：失敗しても安全側に作動する）の重要性について学ぶことができた。（同意見：2件）
- 要因解析の「4つの心身機能と心の訴え」シートは、今後ヒューマンエラーの分析時活用してみたいと思った。
- ヒューマンエラーは止めることができないため、ポカヨケで発生を抑える様に対策をすることを学ぶことができた。
- ヒューマンエラーを無くすことは非常に難しいと思う。自社でも実感している。エラーを起こす作業を無くす、簡素化することで、少しでもエラーの発生を減らすことにつながれば良いと思った。
- エラープルーフ化の5つの原理というものを学べた。この原理を知ることにより改善の着眼点というものを絞り込むことができるので、より有効な対策が打てるのではないかと感じた。
- 資料を作成された方と講義をされた方が異なっているので仕方ありませんが、最終的な解決方法が明確にならない状態で講義が終了したように感じた。（同意見：2件）
- 社内外の教育で受講した講座と重複する内容が多々あり新鮮味に欠けた。QCサークル独自の観点からの突っ込みが欲しかったように思う。（同意見：3件）
- 資料の容量が多すぎた。（講義内容量に対して時間が少し短かった。）（同意見：3件）
- 資料の誤りが多くスライドも見難くて残念だった。
- 実例が古いので新しいものがあればよかった。
- 講義の内容が少し難しくついていくのが大変だった。
- 特色のある内容があればよかった。
- ポカミス事例④(P53)のポカミス防止のポイントに、“作業手順を明確にする（標準書を作る）”もあれば良いと思った。また、守らなくても不良がでない仕組みづくりが必要だと思う。
- テキストの前半は、ヒューマンエラーをなくすために”作業に人を合わせる”が、後半は”人に作業を合わせる”に変わってきた。作業に人を合わせるの是对応できないと思う。

《グループ演習：GD》

- 他の職種の方々と話したことで、同じテーマでの話し合いでも自分とはまた違った角度からの考え方を聞くことができてよかった。（同意見：5件）
- 自分のグループでは、短い時間だったがしっかり話し合いができてよかった。（同意見：3件）
- 要因解析図の使い方、書き方を復習する機会となった。
- 全員から意見をもらいながら進めることができてよかった。
- グループ演習によって、他社の取り組みなどが聞けてよかった。
- グループ演習で実践しながらだったので、楽しい研修会だった。
- グループ演習は久しぶりだったが、積極的に楽しめた。
- 具体的に真の原因を掘り下げるやり方を思い出すことができた。
- 講義では理解できたつもりでも、演習となると難しかった。実践していくにはもっと勉強する必要があると感じた。
- 問題の解決に加え、グループ員の問題へのベクトル合わせも役立つと実感した。会社にもどってGDを開催してみたいと思う。
- 演習を通して、全員の考え方をまとめて報告書を作成する難しさを感じた。自分の考えを伝えること、意見を合わせること、それができないと誤解が生じヒューマンエラーも発生しやすいのではなかなと思う。とても勉強になった。
- 前提条件を決めるのに時間がかかってしまい、実際に突っ込んだところまで踏み込めず、うわべだけの対策報告となってしまった。ある程度前提条件が決まっていて、問題解決に時間をかけた方がよいと思った。（同意見：5件）

《グループ演習：GD》（前ページの続き）

- グループ演習の進め方の説明がもう少しほしかった。なかなか意見がでなかった。（同意見：3件）
- 発表資料を模造紙2枚に記入するのに時間がかかった。また、マジック書きなので、間違ったりするとその部分の訂正や、文字が小さくなり見づらくなった。（同意見：2件）
- グループ演習の役割分担で、サブリーダーは不要かと思う。立つ位置が微妙だった。
- グループの人数が多かった。5人位の方が意見がまとまると感じた。
- グループ演習に使えるQC7つ道具の例が資料であれば助かる様な気がした。
- グループ演習では、3つの演習問題から1つを選ぶ方法でしたが、グループ数も少なかったのも、同じ演習課題を与え、グループ毎でどのような対策の違いが出たのかを発表した方が、短時間でやる場合は成果があったと思った。
- 発表資料はA4でステップ毎のタイトルが入った様式があり、数枚にまとめる様にするのとまとめ易いし、発表も資料をPDFにしたり、書面提示装置やプロジェクターでやれば見やすかったと思う。
- 回答事例がさらっとしている。GDの時に具体的にという説明があったが、回答事例が具体的にでなかった。
- メンバーの業種が異なるため、問題解決のイメージの統一が難しかった。

《全体》

- 会社としてこれから改善活動を進めていくので、講義と演習は大変参考になった。（同意見：2件）
- 資料がわかりやすく、今後ミスが発生した場合に活用したいと思う。（同意見：2件）
- 他の作業者とのコミュニケーションが、全てのことにかわってくることを改めて考えさせられた。コミュニケーションを取ることで改善につながり、よりよい職場ができる。また、ヒューマンエラーが減ることがわかった。（同意見：2件）
- また機会があれば参加したい。（同意見：2件）
- 知らないことが多かったのでためになった。
- 今回の研修内容を自社でも活用したい。
- ヒューマンエラーに関する疑問などがはっきりしたので、参加できてよかった。
- 日頃の管理者の目配り、気配り、声かけ、確認の面が足りないと思った。
- ヒューマンエラー対策の難しさを改めて感じた。
- もう少し現場を見て、作業者を巻き込んで真因分析をする必要性を感じた。この点を指導したい。
- 会社組織として対応がまだまだだとわかったので、体制を作りたい。
- 初めて参加したが、他社の方から刺激されることが多々あり、勉強不足を感じた。貴重な講話をもとに職場に戻ってからは初心に還り実践していきたいと思った。
- 自分の業務がヒューマンエラーの排除なので、今回のセミナー(原因追究～対策といったストーリーだった)では、業務に活かさない部分があった。
- 結局どうしたらいいのか明確なまとめがなかった。

8. 提案、要望がありましたらご記入ください。

- △ 問題解決の正しい流れと手法を学びたい。
- △ 資料内容以外でのお話をもう少し聞きたかった。
- △ グループ討議は不要だと思う。